

令和元年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立千早高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 総務情報部主任＝事務局長、総務情報部員 3名 計 4名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、教務主任（主幹教諭）、総務情報主任（主任教諭）、進路指導主任（指導教諭）、生活指導主任（主幹教諭）、保健厚生主任（主任教諭）、1学年主任（主幹教諭）、2学年主任（主幹教諭）、3学年主任（主任教諭）計 11名
- (4) 協議委員の構成
学識経験者（大学教授）4名、有識者2名、近隣中学校長1名、保護者代表2名、スクールサポーター1名、計 10名

2 令和元年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和元年6月21日（金曜）内部委員 11名、協議委員 10名
協議委員委嘱、委員紹介、学校経営報告・計画、本校の現状と課題、学校評価、年間行事計画、意見交換
 - 第2回 令和元年10月11日（金曜）内部委員 11名、協議委員 8名
教育活動に関する報告、協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、意見交換
 - 第3回 令和2年2月14日（金曜）内部委員 11名、協議委員 7名
教育活動に関する報告、学校評価の報告、学校運営に関する提言、意見交換
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和元年6月21日（金曜）内部委員 11名、協議委員 10名
評価委員長選出、学校評価の趣旨、学校評価の内容、意見交換
 - 第2回 令和元年10月11日（金曜）内部委員 11名、協議委員 8名
学校評価の内容、学校評価の方法、意見交換
 - 第3回 令和2年2月14日（金曜）内部委員 11名、協議委員 7名
学校評価の結果報告、意見交換、学校評価の総括

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

○12月 全校生徒	対象：617人	回収：573人	回収率：93%
○12月 保護者全員	対象：617人	回収：368人	回収率：60%
○12月 地域・住民	対象：30人	回収：21人	回収率：70%
○12月 教職員	対象：54人	回収：54人	回収率：100%

(3) 主な評価項目

- 学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全・いじめ・体罰、家庭での様子、施設・設備

(4) 評価結果の概要 (校長や学校全般への意見・提言内容)

- ビジネスコミュニケーション科としての特色ある学習活動、生徒の将来を見据えたキャリア教育等、本校の教育活動に対してはおおむね肯定的であった。
- 今年度は推薦による上級学校進学が中心であり、一般受験の生徒が減少する傾向であった。組織的な対応に対する満足度の改善が必要である。

(5) 評価結果の分析・考察 (校長や学校全般への意見・提言)

- 生徒のアンケート結果では、学校の特色化、英語学習環境、特別活動に対して高評価を継続しているが、遅刻指導や身だしなみ指導に対する評価が低い状況であり、生活指導部を中心に組織的な指導体制の構築が課題である。
- 保護者のアンケート結果では、多くの項目で肯定的意見が約8割と安定している。進路指導(受験指導)体制、生活指導に関する項目の肯定的意見が6割程度と低く、生徒のアンケートと同様の傾向がうかがえる。より組織的な受験指導体制の構築を進めていきたい。
- 地域・住民のアンケート結果では、地域からの印象や開かれた学校づくりは7割近くの高評価の意見をいただいている。服装等は7割を切り、挨拶では4割を切っているため、服装・挨拶等、さらに指導内容を充実させることが必要である。
- 教職員のアンケート結果では、学校の特色化、英語学習環境、特別活動に対して8割を超える評価であるが、受験に対応した授業については6割を切っており、受験対策に力を入れる必要がある。ライフ・ワーク・バランスについては5割を超える評価であり、在校時間の縮減をさらに進めていく必要がある。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題 (学校の自己評価へ反映)

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- 学習指導に対する評価が高いことがわかった。一人一人の教員が授業改善の努力を継続するとともに教科会をさらに活性化させ全体で共有していくことが重要である。
- 学校行事に対する評価が高い。生徒の自主自立を促しつつ達成感を持たせる支援方法を本校の伝統として継承していくことが重要である。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- 遅刻・身だしなみ等の生活指導、一般受験を活用した進学指導など、個々の教員だけでは対応できない内容に対する要望が強いことがわかった。組織としての対応力をさらに改善・向上させていくことが課題である。挨拶指導にも力を入れる必要がある。
- 自由意見において、一部の授業や服装規定への要望が多く見受けられる。保護者や生徒への丁寧で粘り強い説明が必要である。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項 (学校経営計画へ反映)

(1) 学校運営

- 各教科でICT機器の実践的な活用に取り組み、教員相互で共有することで、教員一人一人の授業力向上を図る。
- 教科代表者会議や東京グローバル10プロジェクトを中心に、ビジネスコミュニケーション科として特色ある教育活動を推進する。
- 教員間・教科間のコミュニケーションを密にしていくことが必要である。

(2) 学習指導

- 生徒の英語の定期的な効果測定に基づく学習指導の改善・充実に取り組み、「使える英語」の定

着を図る。

○課題の提示を工夫・改善するとともに学校図書館の効果的な活用に取り組み、自学自習時間の増加を図る。読書活動をさらに推進していく。

○生徒の自宅での学習時間が少ない状況があるので、学習時間を増やす取り組みが必要である。

(3) 特別活動

○ビジネスコミュニケーション科としての個性化・特色化をより一層図るため、「英語」と「ビジネス」をはじめとする各教科等が様々な形で融合した教育活動を組織的に展開する。

○各部活動において、年間目標や指導方針を定め、体罰等の無い適切な指導による部活動指導を展開する。

(4) 生活指導

○「生活指導統一基準」に基づき、本校生徒として身に付けさせる規律・規範等を明示し、生活指導の充実を図る。

○挨拶指導を充実させる。

(5) 進路指導

○「千早進路ロードマップ」に基づく、組織的・体系的な指導を行い、有名私大への進学を含め、生徒一人一人の進路実現を図る。

(6) 健康・安全

○スクールカウンセラーによる第1学年生徒の全員面接や保護者・関係諸機関との連携等を図り、生徒の心身共に健やかな成長を促進する。教育相談員会を充実させ、生徒把握に努める。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 回答いただいた協議委員人数 6人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
3	2	3	1	0	0	0

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 企画調整会議 0回

8 その他

○保護者のアンケート回収率を高めるため、回収方法の検討が必要である。